

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: アセチルサリチル酸

製品番号(SDS NO): D007400-1

供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2A

呼吸器感作性: 区分 1

生殖毒性: 区分 1B

生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響: 追加区分

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1(中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚))

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1(血液系、中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚))

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

強い眼刺激

吸入するとアレルギー、ぜん息または、呼吸困難を起こすおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

授乳中の子に害を及ぼすおそれ

臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

注意書き

安全対策

使用前に取扱い説明書を手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
口をすすぐこと。
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

貯蔵

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択：

化学物質

化学的特定名：2-アセトキシ安息香酸

慣用名、別名：アセチルサリチル酸、o-アセトキシ安息香酸、アスピリン

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
アセチルサリチル酸	-	50-78-2	3-1652	C9H8O4

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

アセチルサリチル酸

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

アセチルサリチル酸

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入：咳、咽頭痛。
皮膚：発赤。
眼：発赤、痛み。

経口摂取:吐き気、嘔吐。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

特有の危険有害性

空気中で粒子が細かく拡散して、爆発性の混合気体を生じる。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

粉じんが飛散しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるため湿らせてから掃き入れる。

残留分を注意深く集め安全な場所に移す。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

粉じんの堆積を防止する。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。
取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置き、日光から遮断すること。
施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

ACGIH(1977) TWA: 5mg/m³ (皮膚、眼刺激)

ばく露防止

設備対策

排気/換気設備を設ける。
洗眼設備を設ける。
手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。
妊娠中/授乳期中は接触を避けること。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：結晶または結晶粉末
色：無色～白色(結晶)または白色(結晶粉末)
臭い：特有臭
pH：水溶液は弱酸性

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点/凝固点：135°C
燃焼性(固体、ガス)：可燃性
蒸気圧：about 0.004Pa(25°C)
比重/密度：1.4g/cm³

溶解度

水に対する溶解度：溶けにくい (0.25 g/100 ml, 25°C)
溶媒に対する溶解度：アルコール：200g/liter、クロロホルム：59g/liter、エーテル：6.6～10g/liter
n-オクタノール/水分配係数：log Pow1.19

その他の情報

沸騰水や水酸化ナトリウム溶液に溶かすと分解する。

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。

避けるべき条件

火源、熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

酸化性物質

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、1,500 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)) に基づき、区分4とした。なお、ヒトでの潜在的致死量として、> 500 mg/kg (成人)、480 mg/kg (子供) との報告がある (IPCS, PIM 006 (1991))。

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた皮膚刺激性試験においてわずかな刺激性を示した (IUCLID (2000)) との報告が2件あることから区分外 (国連分類基準の区分3) とした。なお、詳細不明ではあるがヒトの皮膚に対して刺激性を示すとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、IUCLID (2000))。ガイダンスの改訂に伴い区分を変更した。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた眼刺激性試験において、中等度の刺激性及び軽度の刺激性を示すとの報告がある (IUCLID (2000))。以上の結果から区分2Aとした。なお、詳細不明ではあるがヒトの眼に対して刺激性を示すとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、IUCLID (2000))。

感作性

呼吸器感作性

[日本公表根拠データ]

ヒトにおいて呼吸器感作性を示すとの報告や (ACGIH (2001)、IUCLID (2001))、アスピリン喘息を発症する事例がある (HSDB (Access on June 2014)) ことから区分1とした。

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

データ不足のため分類できない。

in vivoのデータはなく、in vitroでは細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性である (HSDB (Access on June 2014)、IUCLID (2000)、NTP DB (Access on June 2014))。

発がん性

[日本公表根拠データ]

国際機関等による発がん分類はない。その他、発がん性に関するデータはない。以上より、データ不足のため「分類できない」とした。

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

IPCS, PIM 006 (1991) には、胚の培養系では、単回投与のサリチル酸の血漿中濃度付近で奇形がみられること、ラットはサリチル酸の催奇形性影響に対して感受性が高く、一方、ヒト及びヒト以外の霊長類は抵抗性があると考えられていることが記載されている。また、サリチル酸塩中毒が経胎盤、経乳汁で生じる可能性があることが記載されている。HSDB (Access on June 2014) には、実験動物にお

いては、妊娠初期の投与で様々な奇形（顔面裂、中枢神経系及び眼の欠損、内臓及び骨格奇形）を引き起こすが、使用を管理されているヒトでは奇形はみられていない。妊娠の最終週に長期間、高用量のサリチル酸の処置は妊娠期間の延長、出生後の胎児、新生児の出血のリスクの増加を引き起こす場合があり、理論的には妊娠末期の定常的な使用は胎児の動脈管の早期の閉鎖、収縮を引き起こすおそれがある。治療量での出生児体重の減少、死産の増加は報告されていない。

サリチル酸はFDAの妊娠カテゴリーC（動物の生殖試験では胎仔に催奇形性、胎仔毒性、その他の有害作用があることが証明されており、ヒトでの対照試験が実施されていないもの）。

あるいは、ヒト、動物ともに試験は実施されていないもの。

注意が必要であるが投薬のベネフィットがリスクを上回る可能性はある)に分類されている。

上記のとおり、実験動物において催奇形性を示すが、ヒトにおいては治療量での発生毒性の報告がないことから、区分1Bに分類する。

また、乳汁移行の可能性が報告されていることから、「追加区分:授乳に対する又は授乳を介した影響」とした。

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

ヒトへの経口経路による主な影響は、耳鳴り、聴力損失、痙攣、昏睡、混乱、せん妄、昏迷、振戦、脳浮腫など中枢神経毒性、肝毒性、肺浮腫が報告されている。その他、嘔吐、上腹部不快感、胃腸の出血、頻呼吸あるいは過呼吸、発汗、血管拡張などが報告されている (HSDB (Access on June 2014)、IPCS, PIM 006 (1991))。アスピリンの臨床知見から胃粘膜刺激性が知られており、嘔吐、心窩部不快感、潰瘍、吐血や下血、潜失血の報告がある (ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on June 2014)、IPCS, PIM 006 (1991))。以上より、主な標的臓器は中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚)と考えられ、区分1(中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚))とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

本物質(アスピリン)の内服により、血小板凝集阻害の機序による出血傾向(凝固時間の延長)を生じ、治療のための常用量(600 mg)を5日以上服用すると血液凝固異常をきたす (ACGIH (7th, 2001))との記述より、区分1(血液系)とした。また、情報源の信頼性ランクとしてはList 1相当と判断したIPCS, PIM 006 (1991)には、慢性サリチル酸塩中毒症として、成人では神経症状、吐き気、嘔吐、胃出血(急性症状としては稀で、典型的な慢性中毒症状)、高齢者では呼吸不全、肺浮腫が高頻度にみられ、その他、過呼吸、脱水症、重度の中枢神経症状も多発するとの記述、さらに、標的器官は細胞代謝を受ける全組織であるが、特に、肝臓(肝機能障害)、腎臓(急性腎不全)、肺、内耳神経であるとの記述がある。したがって、区分1(中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚))を追加することとした。なお、旧分類(List外の情報源による分類)とは情報源が異なるため、分類結果が変わった。

吸引性呼吸器有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生毒性(急性)成分データ

[日本公表根拠データ]

甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50>100mg/L (IUCLID, 2000)から、区分外とした。

水生毒性(長期間)成分データ

[日本公表根拠データ]

難水溶性でなく(水溶解度=4600mg/L (PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

水溶解度

0.46 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

log Pow=1.19 (ICSC, 1998)

土壤中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意**廃棄物の処理方法**

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意**国連番号、国連分類**

国連番号に該当しない

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

アセチルサリチル酸

名称通知危険/有害物

アセチルサリチル酸

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法に該当しない。

化審法に該当しない。

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

適用法規情報

輸出貿易管理令別表第1の16の項に該当。

16. その他の情報**参考文献**

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2016 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改

訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。